

西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2011年4月21日発行 Vol.91 発行者：会長 森田 正樹 / 編集：広報部

第14回アジャン スケッチ旅行会作品展 盛会裏に終了 6日間で559人が来場 義援金も30129円集まりました。

4月12日(火)から提携記念日の17日(日)まで開催された恒例の作品展に今年も多くの鑑賞者がありました。新規出品者2名を加え、絵画で14人と写真部門で2名の参加があり、油彩画12、水彩画14、墨彩画(軸)2、写真4、計32点が出展され見応えのあるものになりました。西宮市長からお祝いの花と電報を頂戴しました。テーマはもちろんロット・エ・ガロンヌの風景から日本の風景や静物まで、それぞれの技法とマッチした力作がそろいました。ただ、来場者からはアジャンの風景をもっと見たかったという声もありました。来年の提携20周年記念の訪問を契機にしてもっとスケッチ作品を増やせたらと思います。

また、未だに出口の見えない東日本大震災に微力ながらも何かをしたいと、会場受付に越智さん手作りの募金箱を設置しました。30,129円の浄財が集まり、日本赤十字等に義援金として送ります。なお、鈴木さんの組み写真の作品は「祈り」でした。



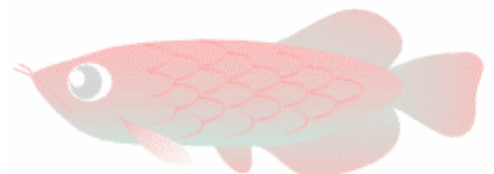
藤枝知子さんにフランス事情を投稿いただきました

四月の魚

フランスの四月といえば、POISSON D'AVRIL(四月の魚 ポワソンダヴリル)です。これは、英語の4月1日のエイプリルフール(四月馬鹿)と同じものです。日本人には一般的にエイプリルフールの方がなじみ深いものですが、そのルーツはフランスにあるとも言われます。その起源には諸説ありますが、

●16世紀にフランス王シャルル9世が新年の始まりを4月1日→1月1日に変えた。元々新年は贈り物を交わす習慣があり、新年の変更後も人々は4月1日に嘘の贈り物をするようになった。

●魚とはサバ(maquereau マケロー)のことで、春になると誰でも簡単に釣ることができ、賢くないといわれる。



4月1日にサバを食べさせられた人を「4月の魚」といつてからかう。

などがよく言われる由来です。この「魚全般=ばかの象徴」というのは、4月1日だけではなく普段生活していてよく実感したものです。

例えば「あいつってさ～、焦ると口をパクパクして鯉みたいなんだよ～ははは。」

という知人に対するからかいを聞いたり、

「トモコのビス(家族や親しいもの同士が、頬を寄せながらキスをするフランスの挨拶)って、下手くそで、ただ口をぱくつかせて、お魚みたいだよ～」

と挨拶の下手さを笑われたり...(苦笑)

どうもフランス人はさばに限らず、魚を一段低くみているとしか思えない言動をすることがあるようです。

さて、フランスでは実際に4月1日に何をするかというと、

●子供編

当日の朝までにフランスの子供は、紙に色とりどりの魚を作り、その上に「POISSON D'AVRIL」と書いて、できるだけ沢山用意します。その日は朝から、家族・友達・先生・近所の人など知っている人全ての背中を狙って、この「お手製の紙の魚」を貼り付けようとします。子供は貼付けに成功すると「ポワソンダブリルっ～！」と大声で勝利を喜び、貼られた人が大急ぎで魚を探し引き剥がす様子を子供達は大笑いで見えています。大人も子供に合わせてのりのりで、貼られないよう警戒して背中を見せないようにします。

●大人編

この日は親しい人同士で、魚の形をしたチョコレートを食べる習慣があります。春になると、パック(イースターのこと)用のたまごやウサギの形をしたチョコレートと一緒に魚の形をした美味しいチョコレートが町のお菓子屋で売られていて、「どのチョコレートを買おうかな！」とウキウキしながら、春が来たことを喜びます。

4月1日は「楽しい嘘をつく日」というより「春の到来を喜ぶ日」というのが、フランス流かな、と思いました。

藤枝 知子



武居さんから楽しい思い出を投稿いただきました

アジャンスケッチ旅行のある思い出(1999.10.24)

時差のせいか、朝3時に目が覚める。6時にダイニングルームに行き、岡田さん、大西さん、池内さんと食事をしながら相談する。

今日のスケジュールを見ると、われわれ、旅行団一同は10時出発のバスに乗り、ソムリ工を訪ねることになっている。

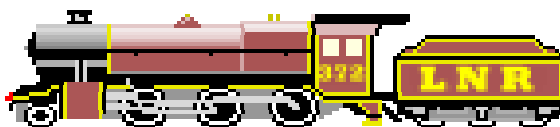
それまでに十分な時間が有るから、この四人で『フランスの列車に乗る体験』をしよう

と言う事になった。駅まで約10分の道程、暗闇の中を4人、駅にむかって寡黙であるが、期待を抱いて歩く。

駅について、改札口上部のボードをみると、7時45分発のポルドー行き列車がある。時間的な余裕はこの列車が普通であれば、次の駅で下車して、簡単なスケッチして、引き返せば、みんなのバスの出発に間に合うが、この列車が特急だと難しいと思えた。

改札口上部のボードには、この列車が普通か、特急かがかいてない。切符売り場の中年の女性に、英語で、ExpressかLocalか聞くが判らない。もうこの列車が発車するいうときに、流暢に英語を話す若い女性が来て、通訳をしてくれ、22F払ってこの普通列車に飛び乗る。列車は静かで振動も少ない。客席の間隔は日本より広い。車窓からガロンヌ河がみえる。約10分で隣駅のPort St Marieにつく。

降りて、駅員にバスに間に合う帰りの列車のダイヤを聞くが、例によって、英語が通じない。時計の絵をスケッチブックに描き、シュッシュッポポという、わかったという表情で、コンピューターの前に座り、その日一日のPort ST Marie発 Agen着の時刻表を出してくれた。



やっと日が明けて来る。どのような所かと期待と不安を持って、薄明かりの中、目を凝らして歩き出

す。駅前左側に、昔、木賃宿らしき建物がある。突き当りを右に曲がると、一本道の古い街がある。それらは道の両側からロープで吊るした街灯などある昔ながらの路地に続く。暫く歩くと、壁の一部が落ちた、むかし、芝居小屋で、今は倉庫のような建物がある。絵を描くには好材料のオールドタウンである。

カメラで風景を写したり、スケッチしたりして、帰りの予定の9時44分の列車の時間まで、あつという間であった。予定通りアジャンのホテルに10時に着いた。

参考意見

1) 団体旅行に、このような勝手な行動は慎むべきであろう。若し何かで遅れたりした場合、団体責任者はどんなに心配するであろう。何処に行く、何時ごろかえるぐらいの事は責任者が、フロントには言うておくべきであった。

2) フランスの鉄道は殆ど電化若しくはディーゼル化で蒸気機関車は珍しい。シュッシュッポポは良く通じたと思う。よほど演技力が巧であったか、相手の理解力が良かったのであろう。

武居 精



東北大震災の後、3月15日にマリーさんから佐藤さんのところにお見舞いメールがきました。「皆さんと分かち合いたいと思い、翻訳しました。」とのことでした。

「私たちは、心から皆さんの国とともにいます。インターネットに投稿されている動画の画面に、ただただ茫然としています。

私たちの国は、他の国々同様、日本が直面している出来事に心を痛めています。そして、核の恐怖におびえています。また日本の方たちの冷静さに驚いています。

LeG の地方紙、プチブルーとラ・デペッシュにインタビューを受けたのですが、日本人の冷静さや毅然とした態度について話してほしいと言われました。わが国でしたら、このような状況におかれたら、略奪やら、商店での押し合いへし合い、争いが起きるでしょう。皆、日本人の規律と連帯精神に学ぶことが多いと言っています。

私たちの会の名前で西宮市長さんに支援の気持ちを伝えるメッセージをお送りしました。

アジャンの司祭にミサで日本のための共同祈願を捧げることを頼みました。この土曜日の18時にアジャンのサクレクール教会で、すべての犠牲者を供養するミサが捧げられ、苦しみの中にある被災者のみなさんを支援する祈りが唱えられます。

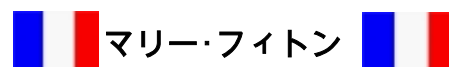
プレスは、「心ある市民がみな気持ちを合わせてこの祈りに加わるように」との記事を掲載する予定です。

今度の金曜日には以前から予定されていた生け花のイベントが当会主催で催されます。

その席上、皆で1分間の黙祷を捧げるつもりです。会員は皆、深く心を痛めています。

どうぞ皆さんがんばって！

みなさんのこと、日本のこと、日本国民のこと心から応援しています。」

 マリー・フィトン

佐藤さん、翻訳して下さい、ありがとうございました。すばらしい翻訳で、マリーさんの言葉そのものに感じました。



東日本大震災へ義援金

3月11日の東日本大震災は、強い揺れに加えて20数メートルもの大津波、そして福島原発からの放射能漏れという阪神大震災の2重も3重もの未曾有の被害を東日本一帯にもたらしました。その復旧・復興の困難さは、震災から1ヶ月を過ぎた今も連日のように新聞・テレビ報道されています。

NLeG 3月定例会では、東日本大震災義捐金として30,000円(国際交流デー売上利益

29,905 円含む)を送ることを決定し、早速、西宮市を通じて義援金を届けました。

また、4 / 12 ~ 17 に開催しましたアジャンスケッチ旅行会展示会の受付に募金箱を設置し、募金を呼びかけました。

一日も早い東日本各地の復旧・復興と、福島原発の安全確保を願うものです。

2011年度総会のお知らせ

2011年度の総会が近づきました。

2011年度の総会は、次のとおり開催する予定です。総会の詳細は、次号でお知らせします。

今年の総会では、来年(2012年)4月の友好提携20周年記念事業として、フランスからの来訪団との交流、そして西宮からのフランスへの訪問団準備を始めるための重要な議題が予定されます。

皆様、今から予定を空けていただき、多数のご参加により盛大な総会となるようご協力をお願いします。

と き 2011年5月22日(日)午後2時から約1時間

ところ 西宮国際交流協会会議室

懇親会 総会終了後同会場で、午後3時から5時まで懇親会を開催します。

会費1000円で、会員の皆様の楽しい交流の場としたいと思います。



~ 定例会だより ~

3月16日(水)3月度定例会が開かれ、以下のことが話し合われました。

- * 2月の国際交流デーの収益にいくらか加えて3万円を東北大震災の義援金として募金することを決定。
- * 絵画展の準備について森田会長から説明。絵画展においても募金箱を設置する。絵画展会期中の受付当番はなるべく出展者で回すこと。
- * 広報部より会報の編集者が減っているが、榎尾さん、池本さん、川合さん、池田さんで順番にさせていただくことで、なんとか回せそうとのこと。
しかし、協力してくださる方があれば大歓迎。
- * 提携20周年に向けて、マリーさんと訪問団来日の準備のやりとりがはじまっている。

西宮からは公式訪問団が派遣される予定。今後実行委員会が立ち上げられる。
平成 23 年度の年次総会を 5 月 22 日 (日) 午後 2 時より、また引き続き午後 3 時より懇
親会を開催することを決定 佐藤 祥子

平成 22 年度末 (23 年 3 月 31 日) で次の方たちが退会されました。

鈴木嘉子さん :

当会設立当初からの会員さんで、鈴木前会長の奥様です。スケッチ旅行、LeG を満
喫する旅、フランス語研修など何度もロット・工・ガロンヌにいらして頂き、ステキ
な絵画作品を残していただきました。

フランスからの来訪者の歓迎会には、センスのよいお料理の腕前を披露してくださっ
たり・・・御退会は真に残念ですが、昨年ご体調を崩されたとのこと。

どうぞ、ゆっくりとご自愛いただきますよう。

松浦靖子さん : フランス語部、会報編集などでご活躍いただきましたが、健康上の理由
で大変残念ながら退会されました。

吉村裕里さん : フランス語部でご活躍いただいていたのですが、ご家庭の事情でお忙しく
退会されました。

お 3 人とも、どうぞお元気で！また機会があれば、是非、ご一緒できますように。

3 月 11 日以来、現実とは思えないあまりに悲惨な映像やニュースに、「なんでこんな
目にあわなければならないのか？」と悶々と考えこんでしまいます。そんな時、被災地
の中学校の卒業式の答辞「苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きて
いく..」

「天を恨まず..」どんなニュースよりも、この中学生の一言で、すべての状況が痛いほ
ど伝わってきて、涙が止まりませんでした。

マリーさんの心のこもったメッセージも勇気付けられました。ベランちゃんもとても心
配してメールくれました。すべての人が幸せになる日が早く来て欲しいです。

私ごとですが、チラシにありますように 5 月 22 日にチャリティ・ジャズライブを開
催します。西宮市にも後援してもらえることになり、近隣に避難されている方々にも楽
しんでいただこうというライブです。

ジャズの生演奏、よろしかったら、ぜひ、お運び下さい。

榎尾 裕美子